

申請団体のデータ（グループ名簿、助成金要望額内訳は割愛しています）

No.1／いずみ会 **継続 3年目**

グループ概要 結成年月 H27. 3 構成員数 23 名 (50 歳以上 16 名、50 歳未満 7 名) 活動市町村 佐久市 代表者 大塚 和枝 (70)	【将来計画】 < 3 年目の事業計画 > 前掲
【事業名】 いずみ会 【事業の種類】 ・高齢者の生きがい・健康づくりを広げるための活動 ・保健・福祉活動 ・子ども世代や若年層を対象とした交流・支援 ・まちづくり 地域文化伝承活動 ・その他、中高年グループが主体となった地域づくり・社会貢献活動 【これまでの活動内容】 サロン・大人向けイベント、子ども向けイベント、学習会、カルチャー（お習字教室 映画会 お手玉づくり等）視察見学の受け入れ、研修講師、物販 【事業の目的】 ①少子高齢化に伴う一人暮らし、老々世帯、未婚の子ども世帯が増え、一人で生活していくことが大変になっている現状で、地域住民が支え合って生活していけるシステムづくり。 ②誰でもが気軽に集える、役割を発揮できる、困りごとが持ち込め解決につなげられる居場所づくり。 ③誰もが地域に住まい続けられるための住民向け啓蒙・学習・共有化の機会を創造する。 【今年度の事業計画】 ①地域で支え合い暮らし続ける為の組織やシステムづくりの具現化開始。 (1) 地域全戸訪問し、住民の暮らしの実態や意識等調査アンケート実施 (2) 「ささえあい」 具体的事例→有償サービスの仕組み構築済み、担い手の確保機会を作る。 ②共同でのものづくり～物販を行う。材料から地域で手作りする。子供たちから出た物販 “案” を応援する。（子供たちの売りを作る） ③「支えあい、暮らし続けるため」の住民向け定期セミナー、ワークショップ等を実施→「在宅での看取り（シリーズ）研修会」の主催。「地域ケアシステム（プロ向け・住民主体実践者向け寺子屋）の共催。 ④みんなが集まる居場所（拠点）の充実をはかり、地域交流を深める→ピザ窯作り ワークショップ ウッドデッキの活用 田団体との連携をはかり、いずみの家の環境や地域への浸透性を整備していく整備していく ⑤既存（2014 年の勉強会で作成）のエンディングノートの共有機会をつくる。 ⑥地域の若者との文化的交流をはかるため「内山郷土料理の会」を定期的に開催する。 ⑦障がい者の受け入れ事例もあることから、手すり等の設置を行う。	【事業実施により地域に期待される効果】 ・地域住民同士による支え合いが整い（一人暮らしでも認知症状や障がいがあっても、重篤な病気になっても、寝たきりになっても）誰をも見捨てることなく、望む皆が地域で役割を持ちながら暮らし続け、困ったら相談`解決でき、楽しく日々をすごすことができる地域となる。 ・高齢者が気軽に外出できる機会が増える ・年齢に関係なく皆が特技を発揮し活躍できる場ができる ・老々世帯や一人暮らしの方の心のよりどころや役割づくりに貢献する。みんなが地域継続の担い手になる。 ・在宅医療とのゆるやかな関係を構築していく。 ・声を掛け合うこと、信頼を獲得することから始めて、お互いの不安や悩みを解消でき、安心して住める地域づくりに繋がる ・放課後の子どもたちの居場所としても開放することで、地域全体で子どもたちを見守ることができる。 ・子ども達による（自主）イベントづくりやものづくり、地域の他の資源とのコラボ等により、この地への思い出や愛着や役割や生活していく上での術を発揮できる能力や自信や誇りを獲得し、地域の担い手となっていくことを期待している。 ・子育て世代の応援団になる。 ・次の世代にバトンタッチできうる“事業”として確立していくことをめざす。

